

2026年09月25日号 10面 No.03

## 建築生産設計協力会／鹿島の研修施設で若手研修会開く／施工図と建物のつながり実感



建築施工図の専門家でつくる建築生産設計協力会（中村務会長）は18日、会員会社の若手社員を対象とする研修会を、鹿島の研修施設「鹿島テクニカルセンター」（横浜市鶴見区）で開いた＝写真。施設内に配置された鉄骨や鉄筋コンクリート造の構造部材、設備機器などを目で見、手で触れ、普段の仕事で描く図面が実際の建物の中でどのように生かされているかを実感する機会となった。

研修会は、経験5年前後の若手社員が対象。会員12社から35人が参加した。講師は池下設計、西建設、sai総合企画、YOU建築事務所の4社

の社員が務めた。

開催に当たり、中村会長は「研修を通じて、図面の精度や品質の向上につなげられるようにしてほしい。皆さんの成長に向けた良い一日となることを期待している」とあいさつした。施設を提供した鹿島建築管理本部建築企画部の竹田智英人事・教育グループ次長は「皆さんが描く施工図がないと、私たちの仕事も成り立たない。この施設で、いろいろなことを覚えていただきたい」と激励した。

研修は4班に分かれて実施。4人の講師が「S造・階段」「RC造・エレベーター」「外装・屋上」「内装」をそれぞれ担当し、建物を構成する部材の意味や取り付け方法、納まりなどについて、モックアップを見ながら説明するとともに、施工図を描く上でのポイントを伝えた。

人材の確保や育成に力を入れる協力会では、専門学校や資材会社などの協力も得て、所属企業の社員向け研修を実施している。今後も「年2～3回は開催したい」（事務局）としており、研修会を通じて各社の技術力の底上げにつなげ、入会メリットを感じてもらえるようにしたい考えだ。

Copyright (C) 2026 日刊建設工業新聞社. All Rights Reserved.